

テレビの中の「ねぶた・ねぶた」

— 1970年代のNHKテレビにおける祭り放映の特徴

阿 南 透*

はじめに

本研究は、高度経済成長期とそれに続く1970年代に、テレビ番組の中でねぶた・ねぶたがどのように取り上げられたかを明らかにし、そのことのもたらす意味を示し、波及効果の研究につなげるものである。

青森ねぶた祭は青森県青森市、弘前ねぶたまつりは青森県弘前市で行われる祭礼である。二つの祭礼は、高度成長期とその直後、すなわち1960年代から1970年代にかけて規模が拡大し、観光客の増加を招いた。このうち青森ねぶた祭の例を述べると、1965年頃から観光客の増加が顕著になり、1967年に人出が200万人を突破する。1968年からは祭りの日程と内容が整備され、1980年に人出が300万人を突破する。しかしこの頃から増加率が鈍くなる。人出がピークに達するのは平成に入ってから十年ほどで、2000年の380万人を最高に減少が始まる。すなわち、人出の観点からすると1965年から1980年頃までが急増する時期であり、祭りの成長期と見ることができる。その要因としては、祭りの観光化、外部イベントへの「遠征」等とともに、映画やテレビによる紹介も重要であったと考えられる。[阿南2016]

私は1997年以降、青森ねぶた祭の調査を行っているが、映画やテレビ放映が行事に影響を与え

たという話を聞くことがあった。収録に際しては主催者側が協力し、さまざまな便宜を図ったといわれており、現地の新聞報道にもその一端がうかがえた。私もその一部を紹介したことがある[阿南2016]。しかしこの時には、実際に放映された映像を視聴することはできなかった。

そこで今回の研究では、NHKテレビで放映された映像の一部を実際に視聴し、内容を紹介するとともにその特徴を明らかにする。そしてこの時期にテレビ番組でねぶたがどのように扱われていたか、その位置づけを明らかにしたい。

1. 研究方法

今回の研究に際しては、まずねぶた・ねぶたを紹介したテレビ番組の実態を調査することにした。民間放送については他日を期すこととし、今回はNHKのテレビ放送を対象とした。NHKアーカイブスでは、ウェブサイト上の「NHKクロニクル」でデータベース「番組ヒストリー」を提供している。このデータベースを用いて番組の検索を行った。これはNHKが保管している放送番組表をまとめたもので、テレビについては放送開始以来の番組を検索することができる。このデータベースにおいて「ねぶた」と「ねぶた」をキーワードとして検索した。その結果、「ねぶた」では588件、「ねぶた」では100件の番組がヒットした。ただしこれは放送番組表に「ねぶた」あるいは「ねぶた」と記載がある番組を検索したものであり、実際にねぶたが映っている番組を一覧

2020年11月30日受付

* 江戸川大学 現代社会学科教授 民俗学

テレビの中の「ねぶた・ねぶた」

したものではない。

今回の研究では、対象となる時期を高度成長期とその前後とし、放送開始から1982年までを対象に具体的な検討をすることとした。その中には同じ番組の再放送も含まれていたため、先ほどの検索結果から再放送を除いてまとめたものが表1

である。

次に、これらの番組を視聴するため、NHK番組アーカイブス学術利用トライアルに応募したところ、2020年度第2回に採択された。そこで表1の番組の視聴を申し込んだところ、保存されていたのは6本だけであった（1本は音声のみの保

表1 番組表にねぶた・ねぶたを含む番組（1982年以前）

日付	時間	放送系統	番組タイトル	出演者
1961年08月07日(月)	午前07:15～ 午前07:59	アナログ総合	おはよう みなさん	植田 敏郎, 宮本 正
1964年07月31日(金)	午前07:20～ 午前07:41	アナログ総合	けさの話題	金丸 富夫
1965年09月11日(土)	午前10:05～ 午前10:29	アナログ総合	おかあさんといっしょ	新 克利, 市橋比呂美, 佐藤 保とブルーリズムオーケストラ, 油川こどもねぶた保存会, 高橋 征郎
1967年05月14日(日)	午前10:00～ 午前10:40	アナログ総合	あなたのメロディー	立川 澄人, 日野てる子, 望月 浩, 桂 京子, 服部 正, 高木 東六, 長坂 幸子, 高木 恭造, 一ノ瀬義孝, 仙台放送管弦楽団, 石井鐘三郎
1967年07月26日(水)	午前07:35～ 午前08:12	アナログ総合	スタジオ102	秋村 友吉, 加藤 隆一, 江馬 嵩, 小柴 美知, 野田 豊, 野村 泰治, 河村 陽子
1968年05月30日(木)	午後08:00～ 午後08:59	アナログ総合	ふるさとの歌まつり 「ねぶた」行事 身内船 カチューシャほか	能代市有志, 八森町有志, アイ・ジョージ, 三船 和子, 宮田 輝
1968年08月03日(土)	午前07:35～ 午前08:12	アナログ総合	スタジオ102	初見 弘, 高島多恵子
1969年08月07日(木)	午後08:00～ 午後08:59	アナログ総合	ふるさとの歌まつり 「ネプタ合同運行」「津軽あいや節」「荒馬踊り」ほか ～青森市青森市役所前広場で録画～	坂本 九, 都 はるみ, 水前寺清子, 宮田 輝
1972年08月02日(水)	午前07:35～ 午前08:12	アナログ総合	スタジオ102	松尾 翼, 関野 雄, 山室 静, 中村 一夫, 水谷 文平, 井川 良久, 帰山 礼子
1973年08月14日(火)	午後10:50～ 午後11:00	アナログ総合	ふるさとのアルバム 「弘前ねぶた」	弘前ねぶたまつり協賛会, 盆踊どだればち保存会, 川嶋千賀子, 藤田 晃, 長部日出雄, 棟方志功, 淡谷のり子
1973年11月21日(水)	午後10:15～ 午後11:00	アナログ総合	文化展望 「祭りへの回帰」——ねぶたの季節——	
1974年08月05日(月)	午後09:00～ 午後09:40	アナログ総合	ニュースセンター9時 「ゆれる日本ベンクラブ」「ねぶた祭り」～青森市から中継～ ほか	磯村 尚徳, 福島 幸雄, 森田由紀子
1974年09月02日(月)	午後07:30～ 午後07:59	アナログ総合	新日本紀行 「ねぶた祭りのころ」——青森県弘前市——	
1975年07月06日(日)	午後02:30～ 午後03:46	アナログ総合	国際テレビ番組コンクール入賞作品 「ねぶたの季節」(ミラノ国際テレビフィルム番組パール賞 2等賞)	弘前ねぶたまつり保存会のみなさん, 伊藤海彦, 長部日出雄, 野村 万蔵, 野村万之丞, 野村 万作
1975年09月28日(日)	午前11:00～ 午前11:35	アナログ総合	あなたのメロディー	伊東ゆかり, いしだあゆみ, ラム, 森山 良子, 中村 八大, 千坊さかえ, 荻 昌弘, 小堀信夫, みずまさつき
1976年06月20日(日)	午前07:30～ 午前07:59	アナログ総合	日本とところどころ 「弘前職人地図」	長谷川達温, 金子 敏雄, 小山内康祐, 福士重吉, 福士越七郎, 塩谷松三郎, 田沢伊佐美

テレビの中の「ねぶた・ねぶた」

1976年 07月 11日(日)	午前 11:00～ 午前 11:35	アナログ総合	あなたのメロディー	中村 見子, 井沢 八郎, 弘田三枝子, 和田ア キ子, 小林 亜星, 谷 啓, 麻生 圭子
1976年 08月 05日(木)	午後 08:00～ 午後 08:49	アナログ総合	NHK 特集 「ねぶた・ねぶた」 — 青森・弘前午後8時 —	長部日出雄, 鈴木健二
1976年 11月 13日(土)	午後 07:30～ 午後 08:15	アナログ教育	NHK文化シリーズ 美をさぐる 「民 芸」(2) — 竹細工とちょうちん —	柳 宗理, 小泉 文夫, 神山 好司, 吉谷 彦 衛
1977年 09月 28日(水)	午前 07:00～ 午前 07:30	アナログ教育	ロシア語講座 「ガーリヤの日本拝 見」 — ねぶた祭り —	G・ズイメンコーヴァ
1978年 11月 03日(金)	午後 07:20～ 午後 09:30	アナログ総合	郷土芸能の祭典	五木ひろし, 都 はるみ, 森 昌子, 新沼 謙 治, 原田 直之, 金沢 明子, 民族文化芸能連 盟, 津軽南部麻美社中, 相川 浩, 友里千賀子
1979年 08月 13日(月)	午前 10:05～ 午前 10:24	アナログ教育		カメラだより (小学生・中学生) 「ねぶたの 夏」 ～青森市～
1979年 09月 01日(土)	午前 09:15～ 午前 09:30	アナログ教育	みんなのせかい (幼稚園・保育所) 「こどもねぶた」	やだこうじ
1980年 07月 05日(土)	午後 08:00～ 午後 09:00	アナログ総合	栄光へのステップ — 第1回日本イ ンターナショナルダンス選手権大 会 — 「プロ・ラテンの部 決勝」 「プロ・モダン部 決勝」	
1980年 07月 19日(土)	午前 07:00～ 午前 08:12	アナログ総合	NHK ニュースワイド ニュース・ 天気予報・スポーツニュース・「け さの中継」	西依ちづる, 宝井 琴梅, 山内 一郎, 江上 波夫, 明石 勇, 山根 基世
1980年 07月 19日(土)	午前 09:30～ 午前 10:00	アナログ総合	なつのこどもひろば	竹田 恵子, 里見 京子, 山田 隆夫, 小泉裕 美子, 呉竹幼稚園のこどもたち
1980年 08月 01日(金)	午後 09:00～ 午後 09:40	アナログ総合	ニュースセンター9時	小浜 維人, 羽佐間正雄, 饗庭 孝典, 高橋 宏一, 隠岐 勝, 葦原 邦子
1980年 08月 06日(水)	午前 07:00～ 午前 07:58	アナログ総合	NHK ニュースワイド ニュース・ 天気予報・スポーツニュース・「け さの中継」	西依ちづる, 森本 毅郎, 頼近美津子
1981年 03月 21日(土)	午後 07:20～ 午後 09:14	アナログ総合	ふるさと芸能まつり	北島 三郎, 横山やすし, 西川きよし, 田原 俊彦, 近藤 真彦, 野村 義男, 石川さゆり, 三沢あけみ, 高橋キヨ子, 民文連, 子ズメ会, 小野満とスイングピーパーズ, 東京放送管弦楽 団, 本條秀太郎社中, 沢田 勝秋, 米谷 龍男, 美波駒三郎社中, 西田和枝社中, 紺野美沙子, 飯窪 長彦
1981年 07月 20日(月)	午前 07:00～ 午前 08:12	アナログ総合	NHK ニュースワイド ニュース・ 天気予報・スポーツニュース・「け さの中継」	西依ちづる, 溝口 明秀, 千代の富士, 河内 洪, 森本 毅郎, 介川 裕子
1981年 07月 26日(日)	午前 11:00～ 午前 11:34	アナログ総合	あなたのメロディー	黛 ジュン, 山崎 誠, 松原 みき, 村田 英 雄, 鈴木 淳, 曾根 幸明, 山口 洋子, 鈴木 邦彦, 神津 善行
1981年 08月 03日(月)	午後 09:00～ 午後 09:40	アナログ総合	ニュースセンター9時	草野 仁, 友杉 祐子, 堂元 光, 佐藤 公一, 中林 利数
1981年 08月 30日(日)	午前 11:00～ 午前 11:34	アナログ総合	あなたのメロディー	ボニー・ジャックス, 河合 夕子, 水森 亜土, 村田 英雄, 尾崎紀世彦, 石本美由起, 小川 寛興, 鈴木 淳, 曾根 幸明, 神津 善行
1982年 07月 10日(土)	午前 07:00～ 午前 08:12	アナログ総合	NHK ニュースワイド ニュース・ 天気予報・スポーツニュース・「け さの中継」	岡野 郁子, 深尾恵美子, 黒川 紀章, 中谷 和男, 飯田 健一, 明石 勇, 池田 裕子
1982年 08月 04日(水)	午後 09:00～ 午後 09:40	アナログ総合	ニュースセンター9時	木村 太郎, 草野 仁, 宮崎 緑, 山田 茂, 柳沢 修, 太田 正二, 花園 郁安

存)。表に網掛けで示した番組がそれである。これらの番組を、2020年9月にNHKアーカイブスで視聴した。

なお、番組表に「ねぶた」の記載がないため検索ではヒットしなかったものの、ねぶたが登場する番組として、1966年8月15日放送の「新日本紀行 青森」を発見した。こちらはNHK公開ライブラリーで視聴することができた。以上7本の番組を視聴した結果を、番組のタイプ別に考察する。

2. ねぶた・ねぶたを紹介する番組

(1) 1966年と1974年の「新日本紀行」

今回の検索結果によれば、ねぶたがNHKテレビの番組に登場したのは、1961年8月7日の「おはよう みなさん」が最初である。この番組を見ることはできなかったが、放送日の8月7日は青森ねぶた祭最終日にあたるため、青森からの中継か、あるいはそれまでの祭り期間中に撮影した映像を放送したと思われる。このように、ニュース番組の中で、祭り期間中に祭りの様子を報道するという形の放送が、早い時期から見られた。

ニュース番組以外で祭りの様子を放送した番組には、祭りの準備から当日までの様子を撮影し、まとめた番組がある。1973年8月14日放送の「ふるさとのアルバム『弘前ねぶた』」がこうした番組に該当すると思われるが、これは見るできなかった。

今回視聴できたのは、2つの「新日本紀行」である。まず、1966年8月15日放送の「新日本紀行 青森」(モノクロ)を紹介する。こちらは1966年の夏の青森を紹介するというもので、内容は多岐にわたる。全国高校総合体育大会が開催されるため高校生で賑わう街の様子から番組は始まる。次にねぶたの制作風景が30秒ほど映るが、その次の場面は高校相撲部の練習風景である。そのあと、八甲田山での夏スキー、りんご園での袋掛け、村祭りにやってきた民謡一座、青函連絡船、飲酒運転の取締り、小学校のカレー給食と続

き、最後の約5分で青森ねぶた祭が映る。ねぶたの由来とされる伝説として、田村磨説と津軽為信起源説を紹介したあと、ねぶたとハネトを映す。映し出すねぶたの題名や作者の説明はないが、国鉄「紅葉狩」(川村勝四郎作)、青森県共済農協連「源頼光と坂田公時」(山内岩蔵作)、青森いすゞ自動車「勸進帳」(北川啓三作)と思われる。そして最後に「踊り狂うハネトとねぶたの乱舞に、私たちは北国の人たちの、短い夏をいとおしむ気持ちを感じずにはられませんでした。ねぶたが終わればもう秋、人々はまた、長い冬の生活の準備に入ります。」というナレーションで番組が終わる。このように、青森市の夏の光景を次々に紹介するが、「踊り狂うハネトとねぶたの乱舞」の理由を「北国の人たちの、短い夏をいとおしむ気持ち」で説明するというまとめ方になっている。

次に、1974年9月2日に19時30分から19時59分まで放送された「新日本紀行『ねぶた祭りのころ——青森県弘前市——』」を紹介する。なお、この番組は新日本紀行の番組内容を文章化した出版物[NHK報道番組班 1978]に収録されていることから、以下の紹介にあたっては同書を参考にした。

番組のオープニングは、津軽平野から見た岩木山である。画面が移動し、大太鼓に乗った3人が上から太鼓を叩くシーンが映る。「津軽じょっぱり太鼓の練習が始まると、弘前はねぶたの季節です。それは、東北の短い夏が燃え上がる時期なのです。」とナレーションが入る。弘前城を訪れる観光客が映ったあと、ねぶた制作の仕上げとして、ねぶたの骨組みに鏡絵を貼る様子が映る。「ねぶたづくりの仕上げの作業が始まりました。ねぶたは、初代藩主津軽為信が大 lantern を作らせたのが始まりともいわれています。今では青森県内の各地で同様の祭りが行われていますが、青森市周辺ではこれを、ねぶたと呼び、弘前地方ではねぶたと呼んで、ともに譲りません。ねぶたを1台作るには数十万円もかかるということで、最近では、前の年に作った骨組みを残して置いて、絵だけを貼り替えるということでした。」とナレーションが入る。

次のシーンは「8月1日、ねぶたまつりが始まりました。7日間の長い祭りの幕開けです。」というナレーションとともに、合同運行の出発場所に集まるねぶたが映る。続いて合同運行のスタートの様子、観客席、審査場を次々に映す。「祭りの初日は、恒例の審査が行われます。絵の善し悪しだけでなく、扇形の美しさ、お囃子のよさ、参加している人たちの意気の良さなどを総合して採点されます。毎年、どこがどういう賞をもらうかが、大きな関心を集めます。私たちが見ている、審査席の前が一番盛り上がっているようです。」と、審査が行われ関心を集めているという説明が入る。

次のシーンでは、ねぶた絵師の一人、長谷川達温氏が住職を務める正伝寺を訪ね、お話しを聞く。次に郊外の下高杉地区を訪ね、りんご農家の館田正行氏ご夫妻がりんご畑で働く様子を映す。次の場面はねぶたの運行であり、館田氏の地区である下高杉公民館から出た組ねぶた「坂田金時鬼退治」が映る。また、観覧席でねぶたを見る長谷川氏が映る。

次の場面は弘前駅での帰省風景で、新婚早々の奥さんを連れて竹内知三氏が帰ってきた様子が映る。竹内氏の家は、中心部にある味噌と醤油の醸造元である。夫妻を迎えて親戚が集まった団欒風景が映る。

次に久保漆器の店と漆器の製造風景が映る。次はねぶたの出発風景で、社長の久保さんの念願が叶って町内（田町）のねぶたを出すという紹介があり、「久保さんの町内からも、今年、30年ぶりにねぶたを出しました。祭り好きの久保さんは、これまでもたびたび他所の町内のねぶたに参加していたのですが、そろいの浴衣を新調して自分達のねぶたをだすのは格別です、とうれしそうでした。」とナレーションが入る。次の場面では先ほどの竹内さんが、小形の担ぎねぶたを担いで進んで行くシーンが映る。

次に、祭り最終日に雨の中を行くねぶたの様子と、「一週間という祭りの長さを物語るように、ねぶたのあちこちが傷んでいました。ヤーヤドーの掛け声がやけっぱちのように聞こえたのです

が、私たちが祭りの終わりを惜しむ気持ちになっていたのでしょうか。」というナレーションが入る。

番組の最後は青空とりんごのシーンである。館田氏のりんごの収穫風景に「ねぶたが終われば夏も終わりだな、ポツンとつぶやいた館田さんの言葉に、あの一週間の長い祭りのエネルギーを知ることができたような気がしました。」というナレーションが入る。続いてスキの穂が映り、「そして、気がついてみると、自然はいつのまにか秋の気配をただよわせていました。」というコメントの後、岩木山が映って終わる。

このように、登場する地域は中心部と郊外、ねぶたの形態では扇ねぶたと組ねぶたを選び、ねぶたを出す弘前の人々の諸相をバランス良く描き出そうとしている。その一方で、個々のねぶたについての詳しい紹介はない。ねぶた絵師は登場するものの、作品を紹介するわけではない。審査が行われることに触れているが、審査結果を詳しく紹介することもない。そして「東北の短い夏が燃え上がる」「ねぶたが終われば秋」というように、ねぶたを季節と関連づける。番組の最初と最後に岩木山を登場させたのは、弘前を代表する風景は岩木山という考え方からであろう。

(2) NHK 特集

次に紹介するのは、1976年8月5日に放送された「NHK 特集 ねぶた・ねぶた」という番組である。これは青森と弘前の祭りの場からの生中継と、関連する映像からなる45分の番組である。

オープニングは青森ねぶた祭の観覧席で、ハネット衣装の鈴木健二アナウンサーがハネット達に簡単なインタビューをしたあと、ハネットと一緒に踊り出す。青森ねぶた祭の基本情報が字幕で紹介される。次に、画面は弘前に切り替わる。弘前城の堀に沿って静かに待機するねぶた。カメラが待機する扇形のねぶたの中に入り、上から周囲を映す。「お城の堀に沿って静かに進むねぶたの明かり。ねぶたとねぶた。たった一字の違いなのですが、こんなにも趣が違います。」というナレーションが入る。

画面は再び青森に切り替わる。鈴木健二アナウンサーがハネトとともに跳ね、曳手と一緒にねぶたを曳き、楽しいハネトにインタビューする様子をひとしきり映す。次に、弘前に切り替わり、雨の中、傘を差して運行を見守る長部日出雄氏（弘前出身の作家）に、アナウンサーがねぶたの魅力インタビューする。長部氏は、ねぶたは津軽の短い夏をせいっぱい楽しむ行事であると言う。また、ねぶたには表と裏があり、表の絵は勇ましい武舎絵だが、裏（見送り）は生首を持った女性であったり、幽霊みたいな寂しい絵であり、生と死が裏表になっていることを語る。そして、祭りではねぶたを6日間引っ張った後、濡れたり破れたりしたねぶたを最後に川に流し、その時にいろいろな祈りを込めたことを説く。

この長部氏の語りについて、別の祭りの映像が流れる。「黒石市大川原の火流し」という字幕が現れ、川で火のついた藁を流す様子が映る。「津軽のねぶた祭りの起源、その歴史は明らかでない。真夏の睡魔を追い払う『眠り流し』の行事は全国各地で見られるが、この火流し——眠り流しがねぶた祭りへ変わっていったという」という字幕が流れる。あたかもねぶたの起源であるかのような説明である。次に、三味線の演奏が流れ、冬の津軽の白黒写真が3枚写り、「長い冬をここで過ごさないと、ねぶた祭りは本当にはわからないと津軽の人はいう」という字幕が出る。

次の場面では、夕方の田んぼの中を進む小型の扇ねぶたの隊列が映る。「黒石へ向う田舎館村諏訪堂こどもねぶた」という字幕が出る。これは青森県黒石市で開催される「黒石ねぶた祭」に、西に隣接した農村部から参加する小型ねぶたの映像である。実は、青森県西部の津軽地方では、このように農村部でもねぶたを制作し運行している。その中には青森、弘前、黒石といった都市にはるばる出かけて合同運行に加わるものもあれば、地域で独自に運行するものもある。番組ではそうした地域のねぶたの例として取り上げたものと思われる。

場面は再び青森からの中継に戻る。鈴木健二アナウンサーが跳ね、周囲のハネト達にインタ

ビューし、最後に跳ねて疲れ切った体験をもとに解釈を述べる。続いてカメラは再び、夕方の田んぼの中を進む小型の扇ねぶたを映す。「ねぶたの裏は『送り絵』が描かれる。表を光とすれば裏は影。人々は死者とのつながりを、そして 過ぎゆく夏を想う。弘前から東へ11キロ、黒石市周辺。」と字幕が出て、去って行くねぶたを映す。最後に「『私の色彩はねぶただ』棟方志功」という字幕が出て番組が終わる。

このように、番組は青森と弘前の2つの祭りを対照的に報じる。全国から観光客を集め、人々が跳ねて賑わう青森ねぶたを一方の頂点として、静けさが漂う弘前ねぶたを対照的な存在として描く。そこから、いわば「原点」となるような祭りとして、火流しと農村の小型ねぶたを取り上げ、「人々は死者とのつながりを、そして 過ぎゆく夏を想う」とまとめる。ねぶたの「意味」を映像を通じて考察して締めくくるのである。なお、どちらの祭りでも個別のねぶた・ねぶたの団体や作品、制作者についての言及はない。

ちなみに、青森におけるテレビ番組の撮影について、翌日の『東奥日報』は次のように報じている。

「この夜のハネトはいつにないハッスルぶり。大人ねぶたの合同運行初日だったこともあるが、さらに輪をかけたのがテレビ中継。NHKが「ねぶた・ねぶた・青森・弘前」と銘打って全国生中継放送用に、県庁前歩道橋と新町通り松木屋デパート前の二か所にテレビカメラを置いたからたまらない。ここぞとばかりに踊り狂った。特に松木屋前のカメラの前では一台一台のねぶたが「ハイ、ポーズ」。ただし困ったこともチョッピリ。運行コースの柳町通りから税務署通りの区間には、待てども待てどもねぶたが来ない。おかげでこの日の運行スケジュールは大幅に狂って、規制に当たっていた青森署はいささかおかんむり。」（『東奥日報』1976.8.6）。

このように、カメラの前ではハネトが力を入れて踊っただけでなく、ねぶたを映してもらおうと各団体が止まったため、運行が大幅に遅れたという。これにより国道の通行規制の解除が遅れたこ

と思われるので、警察としては迷惑なことであつたと思われる。

3. ねぶた・ねぶたを使った芸能番組

(1) ふるさとの歌まつり

「ふるさとの歌まつり」とは、NHK アーカイブスに「全国各地を巡回して年中行事や祭り、郷土芸能をゲスト歌手を交えて紹介。」と紹介されている番組で、1966年から1974年まで放送された。

青森市では1969年8月5日に番組を収録し、8月7日に放送された。この映像は残っておらず視聴出来なかったが、この放送時のエピソードと反響について、郷土史家で、長く青森ねぶた祭の審査員を務めた肴倉弥八氏は次のように述べている。「昭和44年8月5日、NHK『ふるさとの歌まつり』の公開放送が青森であった。田村磨賞の第一候補であった北川啓三作の県庁の『川中島の合戦』を全国放送する予定であったが、前日のリハーサル時、武田信玄の軍扇のところから火が出た。軍扇をくるくる風車のように回す工夫をしたが、その電気配線がショートして火が出たのだ。いつもなら火が出てねぶたが焼けるのは珍しくないで火消し道具を持ち歩いているが、その時は油断した。水の手配が遅れてアッという間に軍扇と腕の部分が焼けてしまった。このため、急遽、国鉄の『山内一豊の馬揃』を放送した。全国放送の反響は大変なもので、あの放送を機に青森ねぶたの人气がぐーんと倍増したのであった。」(肴倉弥八「ねぶた祭り思い出話」)。

戦後の青森ねぶた祭の日程は8月6、7日が中心であり、3日と4日は小型ねぶたの運行、5日は自由運行であった。1968年に主催者による方針変更で、3日から7日まで大型ねぶたが毎日運行するようになった。1969年はその変更の翌年であった。本格的なねぶた運行は6日と7日であり、その前日である5日に番組を収録、さらに前日の4日にリハーサルを行ったことになる。肴倉氏のエピソードに出てくる「田村磨賞」とは、当時の審査で1位になった団体に与えられる賞のこ

とであり、肴倉氏は審査員であったことから、県庁の「川中島の合戦」が第一候補という印象を述べたのであろう。実際の審査結果は、青森青年経営協議会の「三国志」が田村磨賞を受賞した。県庁の「川中島の合戦」が賞を逃したことと、リハーサル時の火災の関連は不明であるものの、テレビ撮影が思わぬ影響をもたらした例である。

この時の地元の協力体制は不明であるが、1962年には映画のロケのため7月に3台のねぶたを作り、踊り子は県庁、市役所、沖館西部連合町内会から千人ずつ動員、総経費130万円を県、市、観光協会で負担するという新聞報道があった(『東奥日報』1962年6月3日)ちなみにこの年は7月30、31日にNHKテレビの人気番組『バス通り裏』のロケが7月30、31日に行われ、青森市役所のねぶたが再び繰り出した(『東奥日報』1962年7月31日)という。つまり、ねぶた制作を1か月以上早め、費用と人員を提供する協力体制を敷いた前例があった。こうしたことから1969年のふるさとの歌まつりに対しても青森市が全面協力していたと推測される。そして、こうした放送により青森ねぶた祭の知名度が高まったという肴倉氏の印象にもつながったことと思われる。

さて、今回の調査では、「ふるさとの歌まつり」にねぶたが登場する例として、1968年に秋田県能代市で収録された番組(1968年5月30日放送)について、音声のみ聞くことが出来た。能代市では8月3日から7日に七夕が行われ、城郭を形どったねぶたを引き回し、最後に頭頂部につけた「シャチ」と呼ばれる飾りを能代川上に流すという行事が行われている。

番組ではゲストの歌のほか、秋田県能代市とその周辺の歌として「ふるさと音頭」「能代船歌い」が歌われ、「八森奴踊り」の紹介があった。また、漁業や林業の様子を紹介するコーナーもあり、漁業関係者が魚を見せたり、柚夫の山仕事を紹介していた。さらに、能代を代表する祭りとして、七夕の「ねぶた」の紹介があり、子どもねぶたをステージで紹介した。大人が曳くねぶたは大きすぎてステージには載らないため、ホールの外で曳

き、ホール内には映像を中継した。放送は5月30日であり、本来のねぶたの時期までには約2ヶ月ある。あいにく当時の能代市の受け入れ体制について調査することはできなかったが、おそらくこの放送のために、時期を早めてねぶたを制作したことが考えられる。

(2) 郷土芸能の祭典

次に、さまざまな祭りを集めたテレビ番組を2つ紹介する。1つ目は、1978年11月3日、19時20分から21時30分まで放送された「郷土芸能の祭典」と題する番組である。これは、日本商工会議所が東京の国立競技場で開催した百周年記念式典に全国の主要な祭りを招き「全国郷土祭」を開催した際に、いくつかの祭りをNHKホールに集めて番組を公開収録したものである。番組に登場した祭りを登場順にまとめたものが表2の左側である（祭りの表記は放送時の字幕によった）。祭りの合間には、歌手の歌が入る。

番組のオープニングは、ステージ上に置かれたねぶたを上の方から少しずつ映していく。ねぶたの説明はないが、穂元無生（鴻生）作「素戔鳴尊大蛇退治」であり、1978年の田村磨賞（最優秀賞）受賞団体である市役所のねぶたである。そこに司会の相川裕アナウンサーと女優の友里千賀子が登場し、

相川「友里さん、これが青森のねぶたですよね」

友里「はい、私、初めて見るんですけど、噂以上に大きいですね」

相川「だいたい幅が10メートルで高さが6メートル、私たちとくらべてご覧になればわかりと想いますが。さあ、郷土芸能の祭典、開幕でございます。」

という語りのあと、相川アナウンサーが出演者を招き入れる。「さあ、続いて今日ご出演の皆さん全員お入り頂きましょう、どうぞ。北は青森からですね、南は沖縄まで、500人余りの皆さんが勢揃いでございますよ。さすが広いNHKホールの舞台も満員という感じになりましたですね。」という語りに合わせて、出演者一同がねぶたの前に

勢揃いする。

その後は表に示した順に祭りがステージに登場したり、あるいは国立競技場からの映像を映したりする。青森ねぶたは、番組の最後に再び国立競技場からの映像で登場し、大勢のハネトがねぶたの前で跳ねている様子が映る。映像がNHKホールに切り替わると、こちらにも同じねぶたがあり、ステージではねぶた囃子の音に合わせてハネトが跳ねている。相川アナウンサーが「今日の出演の皆さん、どうぞお入り下さい」と出演者を招き入れるとねぶた囃子が終わる。そして「どうもありがとうございました。相馬盆歌を歌いながらお別れでございます。」という声に続き、出演者一同が相馬盆歌を歌い、番組が終わる。

このように、青森ねぶたは番組の最初と最後に登場するという破格の扱いを受けている。日本を代表する祭りという扱いであろう。

ちなみに国立競技場での「全国郷土祭」でも、青森ねぶたは最後に登場した。新聞記事はその模様を次のように伝えた。

「フィナーレは青森ねぶたの登場。完全に夜のとぼりがおりた午後6時半、50丁の津軽三味線の合奏が会場に響き渡り、バックスタンドに花火が打ち上げられるのを合図にねぶたに灯が入った。代々木門からは石谷進さん製作の「九紋龍」。千駄ヶ谷門から穂元清有さん製作の「須佐男命大蛇退治」の大型ねぶた2台、そのあとに子供ねぶた二台が続く。地元青森市から参加した木立芳照助役ら60人に加えて東京青森県人会の若手グループ翔和会の会員120人。都民芸能連盟からの100人がはねととなり会場を練り歩く。ねぶたの前に出演した徳島と高円寺の阿波踊りの面々700人と、やはり700人の佐渡おけさの集団が次々に加わってはねとの数は見る見るふくれ上がっていき、国立競技場のフィールドを埋め、午後1時から延々6時間にわたって練り広げられた郷土芸能の祭典を最高潮に締めくくった。」（『東奥日報』1978.10.23）

このように、日本商工会議所の「全国郷土祭」でも最後に青森ねぶたが登場し、他の祭りの集団も次々に加わってイベントを締めくくる演出に

テレビの中の「ねぶた・ねぶた」

表2 番組に登場した祭り

郷土芸能の祭典 (1978年11月3日放送)		ふるさと芸能まつり (1981年3月21日放送)	
ねぶた (青森県青森市)		御神事太鼓 (石川県輪島市)	
オープニング		歌と踊り「隠岐祝い音頭」子スズメ会	
歌「津軽じょんがら節」金沢明子		オープニング	
御神事太鼓 (石川県輪島市)		青笹しし踊り (岩手県遠野市)	
山鹿灯笼踊り (熊本県山鹿市)		鎌倉踊り (岐阜県久瀬村)	
博多山笠 (福岡県福岡市)	中継	歌「津軽よされ節」小山内健一	
手筒花火 (静岡県新居町)	中継	三原やっさ (広島県三原市)	
歌「村祭りの前に」新沼謙治		帯まつり (静岡県島田市)	
百姓踊り (岩手県東和町)		継ぎ獅子 (愛媛県今治市)	
鬼剣舞 (岩手県)	中継	竿灯 (秋田県秋田市)	
牛鬼 (愛媛県宇和島市)		歌「おてもやん」石川さゆり・三沢あけみ	
大入道 (三重県四日市市)		漫才 横山やすし・西川きよし	
祇園会・鷲舞 (京都府京都市)		大めしまつり (茨城県岩瀬町)	
歌「女ひとり」都はるみ		たのきん太鼓 (たのきんトリオ)	
沖縄の踊り (宮城琉舞研究所)		泣き相撲 (栃木県鹿沼市)	
竿灯 (秋田県秋田市)		歌「伊那節」三沢あけみ	
高千穂夜神楽 (宮崎県)		きせる祭り (茨城県真壁町)	
鳥取傘踊り (鳥取県鳥取市)	中継	歌「能登半島」石川さゆり	
唐津曳山 (佐賀県唐津市)	中継	御神事太鼓 (石川県輪島市)	
泣き相撲 (栃木県鹿沼市)		歌「江差追分」小松原次郎	
笑い講 (山口県防府市)		四つ竹踊り (川崎沖縄芸能研究会)	
歌「ふるさと」五木ひろし		弘前ねぶた (青森県弘前市)	
歌「恋ひとつ雪景色」森昌子		歌「風雪ながれ旅」北島三郎	
石見神楽 (島根県浜田市)		山鹿灯笼 (熊本県山鹿市)	
因幡の傘踊り (鳥取県鳥取市)		エンディング・豊年こいこい節 (宮城県)	
歌「佐渡おけさ」原田直之、金沢明子			
歌「八木節」(群馬県)			
阿波踊り (徳島市、東京都高円寺)	中継		
ねぶた (青森県青森市)	中継		
ねぶた (青森県青森市)			
フィナーレ・相馬盆歌			

なっていた。フィナーレを飾るにふさわしい祭りとして青森ねぶたが評価されていたのである。

(3) ふるさと芸能まつり

次に、1981年3月21日の19時20分から21時14分まで放送された「ふるさと芸能まつり」を取り上げる。これは、先述の「郷土芸能の祭典」とよく似た番組で、日本の様々な祭りが登場し、合間には歌手の歌が入る。登場した祭りを表2の右側にまとめた。

今回のオープニングは「ふるさと芸能まつり」という字幕で、そこに「ふるさとのかおりがします。ふるさとの音が聞こえます。時の流れと風雪の中を、ひたすら生きてきた、ふるさとの心です。」という司会者の声が流れる。祭りは「ふるさと」を表象するものとして扱われているのである。続いて闇の中に「御陣乗太鼓」が流れ、鬼の面をかぶった打ち手が映る。太鼓が止むと照明がつく。ステージに三味線と銭太鼓の奏者がずらりと並んでおり、歌が始まる。高橋キヨ子の「隠岐祝い音頭」である。以後、表2にまとめたようにさまざまな祭りが登場し、合間に歌などが入る。弘前のねぶたが登場するのは終わりの方である。囃子が鳴り、ねぶたが舞台の下からせり上がってくる。進行役の飯窪長彦アナウンサーによる紹介は、「津軽の夏を彩る青森のねぶた、それに対してねぶたと呼ばれる弘前のねぶたまつり、扇型をした巨大なねぶたが街中へと繰り込むありさまは、まさに日本の祭りの一つの象徴とも言えるでしょう。」というものである。続いて横から、情張り太鼓が出てくる。進行役の女優の紺野美沙子が「出て参りました。ねぶたに華と力を添える、津軽の情張り太鼓です。重さ2トン、直径3.3m、長さ3.7m、とにかくものすごい大きさです。」と紹介する。囃子にあわせてねぶたをゆっくり回転させる。ねぶたの出番はこれで終わるが、ねぶた本体はそこに置かれたまま番組は進行する。北島三郎の歌があり、山鹿灯籠の歌と踊りがあり、出演者がステージに集まって豊年こいこい節を歌ってエンディングを迎えるが、これらはねぶたの前で行われる。

アナウンサーの紹介に「まさに日本の祭りの一つの象徴とも言えるでしょう」とあったように、ねぶたが主役の一つとして扱われていたことがわかる。また「津軽の夏を彩る青森のねぶた、それに対してねぶたと呼ばれる弘前のねぶたまつり」という説明からは、知名度の高い青森のねぶたと関連づけて弘前のねぶたを紹介する意図がうかがえる。

なお、この番組に登場した祭りでは、山車あるいは山・鉦・屋台などと呼ばれる大型の「装置」が登場したのは弘前ねぶただけであった。他は人々が歌い演じる祭りが多かった。祭りの選択基準は不明であるが、運搬費用や控える場所の問題もあったと推測される。日本の祭りの中から大きな祭りを1つ登場させるとすれば、ねぶた・ねぶたを選択することになったものと思われる。このことから、日本の祭りの代表としてねぶたが扱われたことがわかるのである。

(4) 第1回日本国際ダンス選手権大会

次に紹介する番組は、1980年7月5日の20時から21時まで放送された「栄光へのステップ 第1回日本国際ダンス選手権大会」である。

これは日本武道館で開催されたダンス選手権の模様を録画で放送したものである。ねぶた自体はダンス選手権と直接の関係はないが、開会式のアトラクションの一つとして登場した。すなわち、選手入場に先立つ「オープニングパレード」の一つとして、PLレザンジュの少女たちによるダンスに続いて、小形ねぶたと跳人が登場したのである。会場にはねぶた囃子が流れ、跳人の人数は、数えたわけではないが約50名はいたであろうか、2列に並んで跳ねながら進んだ。列の中ほどに小形のねぶたがあり、跳人とともに進んで行く。会場には「日本を代表する夏祭り、ねぶたの皆さんが、この大会のために青森から参加してくださいました。盛大な拍手でお迎えしたいと思います。」というアナウンスが流れた。跳人の列の中に囃子方もおり、ひとしきり跳ねたあと退場した。

映像ではねぶた自体をじっくり確認することはできなかったが、題材は「暫」であろう。ちなみに出演者は「民謡舞台芸術研究会 青森ねぶた正調囃子保存会」と字幕で紹介された。テレビ番組ではねぶたの登場は短時間で終わり、続いて選手団入場へと場面は移っていった。

ここでは、ねぶたが「日本を代表する夏祭り」であり、跳人の登場する祭りでもあることから、ダンスの日本選手権のアトラクションに選ばれたのである。

4. 考 察

今回紹介したテレビ番組が放送された時期は、特に青森ねぶた祭の知名度が高まり、観光化に向かっていく時期であった。1968年には、8月3日から7日までの期間中に大型ねぶたが毎日運行するよう運行方法を見直し、有料観覧席の販売を開始したが、これは増加する観光客への対応からであった。また、その前から青森以外の場所にねぶたが出かける「遠征」が行われていたが、全国にねぶたの名を知らしめたのは、主として1970年の大阪万博「日本の祭」と、1971年から毎年8月に東京・神宮外苑で開催されたイベント「日本の祭」に連続出場したことが影響したと言われている。そして1978年には8月2日に前夜祭を開催し好評であったことから、1979年には祭りの会期を一日延長し、8月2日から7日までとした。

こうしたことから、今回視聴することができた番組は、一定の知名度のあるねぶたをより詳しく紹介する番組と、祭りが「ふるさと」を表象するものとみなし、各地の祭りを集めた番組の目玉として、ねぶたを日本の祭りの代表として扱う番組、この2種類に分けることができるだろう。

前者の番組としては、1966年の「新日本紀行・青森」、1974年の「新日本紀行・弘前」、1976年の「NHK特集ねぶた・ねぶた」がある。そこではねぶた・ねぶたをより深く紹介することを意図し、年中行事に対して人々が抱く意味づけを示そうとする。ねぶた・ねぶたの原点となりそうな他の行事を映し出す場合もある。「NHK特集ねぶ

た・ねぶた」では、「ねぶたの裏は『送り絵』が描かれる。表を光とすれば裏は影。人々は死者とのつながりを、そして 過ぎゆく夏を想う。」とあるように、盆行事との類推を暗示するようなナレーションもあった。

そしてどの番組でも、津軽の短い夏と長い冬が強調される。「NHK特集ねぶた・ねぶた」では、津軽三味線の音色をバックに冬景色の写真が映し出され、「長い冬をここで過ごさないと、ねぶた祭りは本当にはわからないと津軽の人はいう」という字幕が登場した。

後者の番組としては、1978年の「郷土芸能の祭典」、1981年の「ふるさと芸能まつり」が典型である。日本各地のさまざまな祭りが登場する中で、番組の最初もしくは最後（あるいは両方）にねぶた・ねぶたを登場させ、日本の祭りの代表としての重要性を示す。また、ねぶた・ねぶたの大きさを具体的に述べ、大きいことを強調する。1980年の「ダンス選手権大会」は開会式のアトラクションの1つにすぎなかったが、「日本を代表する夏祭り」と紹介される。なお、1969年の「ふるさとの歌まつり（青森）」は視聴できなかったが、青森を代表する祭りとしてねぶたを紹介したものと思われる。

両者に共通している点として、ねぶた・ねぶた本体は祭りの「用具」のような扱いであり、個々のねぶた・ねぶたを作品として紹介したり、制作者に詳しく言及したりすることはなかった。祭りそのものを総合的にとらえ、年中行事として紹介する視点で扱っていることが指摘しうる。祭りに関わる特定の個人に焦点を当てた番組が登場するのは、ずっと後のことである。たとえば「新日本紀行」については、取材地を再訪し、現在と当時の映像を対比する番組「新日本紀行ふたたび」が作られており、1966年の「新日本紀行 青森」を踏まえて、2009年に「ねぶた 夏の青春譜——青森市——」という番組が作られている。番組の中では1966年の「新日本紀行」の映像も引用されているのだが、2009年の「ふたたび」の方では、山車の曳き手の大学野球部員のリーダーに焦点を当て、一個人を通じた青森ねぶた祭を描

いている。

おわりに

今回はNHK テレビに限定してテレビ映像を視聴した。今後、機会があれば民間放送や映画の中ではどのように扱われていたのか、放映内容を確認したいと考えている。

また、今回はねぶた・ねぶたの「発展期」の映像を扱ったが、祭りの転換期を迎えたと考えられる1980年代後半から1990年代には、放送内容にどのような変化が見られるか、考察してみたいと考えている。

さらに、テレビ放送の影響により全国にねぶたの存在を知らしめたことから、「遠征」が増加したのではないかと考えられる。「遠征」自体は1950年代からあるのだが、私は1980年代から増加したという印象を持っている。この点の解明も今後の課題としたい。

謝 辞

本稿は、NHK番組アーカイブス学術利用トライアル(2020年度第2回)の成果を含むものである。番組視聴に当たっては、NHKエンタープライズの阿部康彦氏、豊島圭子氏に多大なるご配慮をいただいた。新型コロナウイルスの流行中にもかかわらず番組視聴を可能にいただいたご配慮に感謝する。

文 献

- 阿南透, 2016「青森ねぶたの現代」宮田登・小松和彦編『青森ねぶた誌 増補版』青森市
- NHK報道番組班, 1978『NHK新日本紀行 第2集 ふるさとの祭り』新人物往来社
- 肴倉弥八, 1980「ねぶた祭り思い出話」『日本の火まつり 青森ねぶた』青森観光協会
- 弘前観光コンベンション協会・弘前ねぶた保存会編, 2019『弘前ねぶた本』弘前観光コンベンション協会
- 宮田登・小松和彦編, 2016『青森ねぶた誌 増補版』青森市(初版は2000年刊行)
- NHKアーカイブス「ふるさとの歌まつり」https://www2.nhk.or.jp/archives/tv60bin/detail/index.cgi?das_id=D0009010122_00000 (2020年11月1日閲覧)